

第2次空港調査報告会が開かれ、学生70人がレポートを提出、単位を認定しました。



報告する丸山教授

1月19日、第2次空港調査に参加した学生を対象に、調査データの集計結果をふまえた報告会が開かれました。最初に空港調査プロジェクトの代表丸山教授が中部国際空港の現状、社会的評価についてふれ、国際空港であるゆえに地域に深く根付き、支持される空港をめざす必要があることを強調。続いて西山現代GPコーディネーターから調査結果の各項目に従って詳しい報告が行われました。とくに開港期の特徴である見学者が、調査時点では堅調であり、活発な消費行動を行っていること、これを持続するために何が必要か、個性的な提案が期待されていることを強調。このあと現代GP推進室から開港3ヶ月、半年など節目ごと各紙で取上げられている新聞記事6点を参考に、「地域との共生—地域の発展に貢献し、地域に支えられる—をめざす空港のあり方」を3000字にまとめることを提起しました。

1月末には70名余の学生がレポートを提出し、それぞれ国内フィールドワークの単位が認定されました。

地域連携教育研究会を半田キャンパスにて開催。5大学から26名が参加。

2月25日、半田キャンパスで地域連携教育に関する研究会を開催しました。研究会には本学の現代GPの報告のほか、別府大学、松本大学、作新学院大学からそれぞれの大学の個性的な報告が行われました。



本学からは齊藤現代GP推進室長が、特色GPも含めて、教育改革の全体的な取り組みを報告し、西山現代GPコーディネーターが、学生による中部国際空港の来港者消費動向調査活動を報告。全体討論では、学生の取組についての教育的な意義、活動評価をめぐって意見が交わされたほか、地域連携教育の内容、専門を超えた学部の教員の協力体制などをめぐって実際の取組みの問題が活発に論議されました。

研究会には前出の3大学のほか、熊本学園大学からも参加者があり、合計他大学9名、本学からは経済学部、福祉経営学部、社会福祉学部から16名の教職員が出席しました。また研究会に先立って、同日半田キャンパスで開かれた現代GPの生涯学習プロジェクトによる生涯学習フォーラム(代表:情報社会科学部中川教授)に参加。実際の取組みを体験しました。

常滑・一木橋フェスティバルを学生が支援

一昨年からはまった常滑・焼き物散歩道の住民による一木橋フェスティバル。昨年10月に行われ、37名の学生が設営、運営、道案内ボランティアに。



常滑市の焼き物散歩道

10月31日開かれたフェスティバルは、焼き物散歩道地区の陶器作家、ギャラリーのデザイナー、商店主などの皆さんのほか、農業者、小学校の教師、市役所の職員など多彩な人たちによる実行委員会が主催したものです。

本学からは、在学中から学生チャレンジショップを運営してきた経済学部卒業生の浜本君や同店に勤務する社会福祉学部の長谷川北斗君の呼びかけに応じて36名の学生がボランティアとして参加。前日はフィールド学習に来ている京都橋大学の学生と協力して準備活動が行われ、折からの雨のなか周辺2キロ四方は一気に祭りムードに。準備が終わったあと、両大学の学生交流会は東男と京女のにぎやかな交歓パーティになりました。

明けて翌朝は一転して快晴。早朝から本部設営、駅での会場案内、臨時巡回バスのバスガイド、ごみの収集から終了後の撤収作業まで、献身的な学生の活動が展開されました。

「国内フィールドワークⅠ」など170名の学生に単位認定

地域連携・地域貢献型のフィールド学習を正課の単位として認める専門科目「国内フィールドワークⅠ～Ⅷ」が、今年度から設置されました。従来は海外でのフィールドワークを行った学生に対して単位認定していたものですが、現代GPプログラムによる地域での学習の広がりに対応して、新設科目として開かれたものです。担当教員の指導のもと、学習・活動時間が年間60時間以上で、事前・事後の全体会に出席し、総括レポートを提出した学生に対して2単位を認定したものです。4年間で最大16単位まで取得することができます。2005年度末には「海の文化とものづくり」、「蔵のまち」、「国際化」、「空港調査」の4プロジェクトに参加した学生のうち、170名の学生が単位を取得しました。

現代GPのホームページもご覧下さい

<http://www.n-fukushi.ac.jp/gp/gendai.htm>